

日中21世紀交流事業(21世紀東アジア青少年大交流計画の中国部分)

2007年5月現在

目的:相手国での直接の体験や生活、交流、ホームステイを通じて、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる国民相互間、特に青年間の信頼関係を育むこと。

日中友好会館

「日中高校生短期交流事業」
(平成17年度補正:日中友好会館への
拠出金5億円)
(平成18年度補正:5年間で日中友好会
館への拠出金約82億円)

短期交流事業(10日間程度)

中国高校生の短期招聘、ホームステイを実施。
また、日本の高校生も中国へ派遣。日中青少年の交流(一日ホームステイなど)を通じた相互体験(平成18年度招聘数はのべ1100名程度、派遣数は200名。平成19年度招聘予定数は1900名、派遣は現在調整中。)

国際交流基金

「日中交流センター事業」100億円
(補正:国際交流基金への出資金20億円を含む)

中長期招へい(3週間～1年程度)

中国の高校生等(日本語履修者を含む)を招へいし、学校生活、ホームステイ、同世代との交流事業を通じた日本社会を直接体験する。平成18年度は1年間の長期37名、中期40名の招聘を実施。平成19年度は1年間の長期招聘100名を実現すべく、現在調整中。

連携

市民交流「担い手」ネットワーク事業 ふれあいの場の設置・運営事業

地方自治体、民間企業、市民間、また中国における文化交流関係者のネットワークを確立し、情報の共有、事業支援等により日中双方で担い手を強化・育成

中国の若者等が集う中国国内の既存施設等に、日中市民交流の場である「ふれあいの場」を開設・運営支援